

STEP UP

発行元 劇団仲間

2004年8月31日発行

164-0011 東京都中野区中央2丁目54-10

TEL 03-3368-4623 FAX 03-3368-6181

http://www.gekidan-nakama.com

E-mail info@gekidan-nakama.com

編集責任者 三橋怜子

小さなソフィーと のっぽのパタパタ



ソフィーと仲間たちの
冒険が始まる!

ソフィーは自分の部屋の外の世界がいっ
たいどうなっているのか、知りたいだけ
なのです。



テ・チョン・キン 絵

エルス・ベルフロム 原作
野坂悦子 訳

徳間書店刊

鄭 義信 脚本・演出

小さなソフィーには、知りたいことがたく
さんありました。でも人の話にいちいち口
を突っ込んで、あれこれたずねるわけでは
ありません。

この芝居は、生きることそのものなんだ

恋書より by 田のテロール

東京芸術劇場 (小ホール②)

公演日・2004年11月 3日～11月 7日

料 金・4000円 (全席指定/消費税込)

面白いだけじゃ、つまらない!

開演時間	3(水/祝)	4(木)	5(金)	6(土)	7(日)
14:00	○			○	○
18:30		○	○	○	

小さなソフィーとのっぼのパタパタ

日本の読者のみなさんへ

エルス・ベルフロム

私が『小さなソフィーとのっぼのパタパタ』を書きはじめたのは、いろいろな出来事が起こる物語を書きたかったからでした。挿絵画家のテー・ジョン・キン氏が、私の物語にそえて、絵をたくさん描いてみたが、いつてくれたのです。でも、もし、出来事がすべて同じ場所で行ったなら、単調な絵がつづくことになってしまいます。そこで、非常に好奇心の強い、世界のこや生きることについて、すべてを知りたいと思っている女の子を主人公にしました。その子は、どうしてそんなにいろいろなことを知りたがるのでしょうか。それは、病気がかかっている、残された時間があとわずかだからです。女の子は、ベッドをはなれて、さまざまな冒険をすることになりました。猫や人形やぬいぐるみが、人生ではどんなことがあるのか見せようと、女の子を旅に連れていきます。この旅は、現実の時間の中で起こる、ありふれた旅ではありません。

さいごに、ソフィーという病気の女の子は、自分も加わって、いたお芝居の中で、消えてしまします。あなたも、そんなふうを感じたことがあるでしょう、すわってほんやり夢を見ていたり、空想をふくらませたりしているとき……

私も、本を読んだり映画を見たりしていると、その中に入っている感じが、自分が消えてしまうように感じるがよくあります。それが本を読んだり、たくさんものを見たりすることの、すばらしいところだと思っております。

本書より

作品と向き合う中で

脚本・演出／鄭 義信

「小さなソフィーとのっぼのパタパタ」は脚色するには、少々難しい原作である。「小さなソフィー」の主人公ソフィー（彼女が本当に主人公であるかどうかは、はなはだ疑問ではあるけれど）は、のっぼのパタパタ、猫のテロールとともに旅をする。



そう話すと、なんだか心躍る冒険譚を想像しそうなものだけれど、これが単純な冒険譚ではない。冒険譚と言うよりも、ファンタジー（白日夢）……醒めない夢と言ったほうが、むしろ正確かもしれない。ソフィーはただただ泥道にも似た夢の中をずつと歩いていくしか術がない。泥道は果てなく続き、やがて靴に泥水が滲み始め、靴下まで濡

れて、でも、脱ぐに脱げない……なぜなら、それは夢であるからだ。

形のない夢を形にするのは難しい。それでも、あえて「小さなソフィー」の脚色に挑戦したいと思ったのは、ラスト近くのソフィーの台詞が、ひどく胸を打ったせいだ。

「人生で手に入るものって、ほんとにいっぱいあったのね！それが知りたかったの。こんなにたくさん、こんなにたくさん！」

ソフィーはさんざんな目に会った（頭がつるっぱげになったりもする）にもかわからず、嵐のラストの上で笑いながら、そう叫ぶ。「人生でなにが手に入るのか」を知りたかったソフィーは、嵐の中で、すべてを失い、失った末に、それでも、そう叫ぶのだ……。その痛ましき、厳しき、ひたむきさ……。死を前にして、なおも真っ直ぐに生きようとするソフィーの心情が激しく、僕たちの心の扉を叩く。

ファンタジーという、甘い夢物語を想像しがちだ。けれど、作者のエルス・ベルフロムは、そこに苦い、逃れることのできない人生の真実を盛りこんでくる。そして、その苦い、逃れることのできない人生もまた、美しいもの……。ファンタジーであると教えてくれるのだ。



鄭 義信（ちよん ういしん）氏は一九八七年、劇団「新宿梁山泊」の旗揚げに参加し、座付き作家となる。一九九四年には映画「月はどっちに出ている」で日本アカデミー賞優秀脚本賞を受賞。一九九六年に同劇団を退団、一九九九年「愛をもうひと」は日本アカデミー賞最優秀脚本賞を受賞。現在も各方面でその才能を遺憾なく発揮している。

小さなソフィーとのおぼのパタパタ

この作品は安由由美子さんの提案により、芝居として上演することを決めました。そんな彼女にこの作品の魅力を伺いました。



「人生で何が手に入るか!？」

安由由美子

あるところに知りたいたい事がたくさんある病気の少女がいた。ある夜少女は自分の人形たちが始めた芝居に飛び入り参加する。テーマは『人生で何が手に入るか』この奇妙な芝居の中で良事?悪事?様々な事に出会う。それらの出来事を通じて、自分の部屋だけが生きる世界の全てだった少女は『人生』を見つける。

数年前なら、ただ通り過ぎる一遍の物語だったろう。が、何故か今の私には染みいってしまったのだ。「何々がしたい」より「何々をしなければならぬ」の方が先に立ち、過ぎゆくこの頃。時折感じる空虚さ。少女が「世界は美しい、素晴らしい、本当に嬉しい」と叫んだように胸に落ちた。

「人生で何が手に入るか」まさに今、これをテーマに自身が奇妙な芝居の中で混沌と彷徨っているんだなあ(ちとクサイけど)

どんな舞台になるのかも楽しみなのである。

エルス・ペルフロム氏への質問

聞き手/ソフィーは、「人生で何が手に入るか」を探す旅を、人形劇に参加することによって始めます。でも、たとえば「ベッドの中で夢を見る」といった、ほかの方法によってソフィーが旅を始めることもできたと思うのです。私の初めの質問は、「ソフィーの旅の出発点として人形劇を選ばれたのはなぜですか」ということです。

作者/ソフィーは、お芝居の中でひとつの役を演じますが、その中に入りこみ、お芝居で起こることはソフィーにとって現実になるのです。私自身、なにかに夢中になると、ソフィーと同じように感じる事がよくあります。それから私は、不思議なことが起こる物語に興行きを与えるため、「のぞきからくり」のような物を使うことが多いのです。子どもの頃に自分で作ったのぞきからくりは、箱に穴をあけ、中がのぞけるようにしたものでした。箱の内側には絵が見えます。布きれや紙で作った魅力的な世界が、とても簡単に目の前に見えるのです。私は物語を読んだり、映画、芝居などを見るときも同じように感じます。目の前の世界が、現実であり、同時に現実ではないものとして感じられるのです。「質問のように「夢を見る」という設定にすると、こうした効果が得られません。だから、ソフィーの物語が高熱に浮かされた少女が見た夢だ、と説明されると、腹が立ちます。私にとって、この物語は、夢よりずっと現実に近いものなのです。それに、実際にはほとんどまだなにも経験していないソフィーが、どうして「人生

で手にはいる」ものをすべて夢に見ることができるとしよう? だからこそソフィーたちのお芝居は、世界が削られる場面から始まるのです。

【児童文学評論】 雑誌増刊 二〇〇〇・六・二十五日号より抜粋

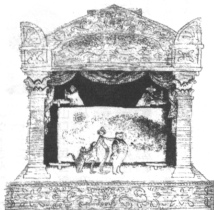
聞き手 児童文学者 ひこ・田中

★キャスト

ソフィー / うえのあや
 パタパタ / 大門裕明
 テロール / 新堀創世
 アナ / 安由由美子
 ベラ / 松下立子
 クマ / 鎌田睦大
 パタパタの父 / 平本隆詞
 パタパタの母 / 谷川亜希

☆スタッフ

脚本・演出/鄭 義信
 美術 / 加藤ちか
 照明 / 石島奈津子
 効果 / 小原 誠
 音楽 / 青木 渉
 衣裳 / 出川淳子
 振付 / 伊藤多恵
 特殊美術 / 渡辺数憲
 舞台監督 / 吉木 均
 制作 / 小田芳信



★さあ、芝居の始まりだ!★

モモと時間どろぼう

原作/ミヒヤエル・エンデ 訳/大島かおり (岩波書店刊「モモ」より)
脚色/小松幹生 演出/香川良成 演出補/高田 潔

「ツイーさんの思い出とこれからも頑張るぞ」
つてなことです

鈴木志門 (ジジ)

「なあんちゆうごうことはないんだよ！」
モモと時間どろぼうで僕が一番好きな台詞です。
どんなに辛いことがあっても、悲しくても「なあ
んちゆうごうことはないんだよ！」と
笑いおぼせたら人生最高ですよネ。

先日亡くなられた大先輩の津島康
一さんが舞台上でこの台詞を吐か
れる時、僕はいつも袖でスツゲー
なあと見とれていました。(へト
手しそうなほどに) そこには演技
なのか生なのかわからない、真の
開放感と清々しさと大きさがあり
ました。恐らくツイーさん自身が本
気で感動し、グズグズ悩んでいる
自分(ベツボさん)を鼓舞してい
たからこそ、あんなに素敵な音色
の台詞となっていたでしょう。

思えばツイーさんは誰よりもテン
ションの高い大きな声で「おはよ
うございます！」と挨拶される方
でした。僕はほんの五分程、ジジ

とベツボという間柄で共演させて頂く時間があつ
たのですが、ツイーさんは時々僕に「楽しくやっ
てくれよ！」とはにかみながら言ってくれました。
そしてくまれに終演後、「今日は楽しかったな。」
と言ってくれました。(それ以外の時はどーだっ
たんですか?) ダメ出しされたこともなく、楽し
めたか否かだけ。若い僕に自分を上回るエネルギー



—山口公演カーテンコール 2004/5/26—

あなた、モモの話、知っていますか？

平成5年度東京都優秀児童演劇選定優秀賞受賞

平成6度文化庁芸術祭賞受賞

平成16年度児童福祉文化賞(舞台芸術部門)受賞

シユなものを期待して下さっていたんだと思いま
す。その証拠に僕が下手な歌を熱唱し(笑)フル
テンションで舞台上で弾けていると嬉しそうにニヤ
ニヤと見守ってくれていました。僕はツイーさんの
大きな声と元気な立ち振る舞いが、舞台のテンショ
ンに必ず役立つと思っています。

どれだけ怒られてもへこまされても「なあんちゆ
うことはないんだよ！」と腹のそこから言っ
てやります。ツイーさんは僕に大事なことを教えてく
れました。拓くこと。楽しむこと。一度きりの人生。
ボールと弾けてやります。

ツイーさん。本当にありがとうございました。
津島先輩！「僕は…元気だ！」



『ツイーさん』、こと津島康一
(七十二)が、三月二十二日
午後七時二〇分ごろ、山口県
山口市市民会館で「モモと時間
どろぼう」の公演中に、舞台

上で突然倒れた。救急車で市内の病院に搬送され
たが、午後八時四十二分に死亡。死因は脳出血。
※青森県出身。俳優座養成所を卒業し一九五五年に劇団
仲間に入団した。父親は元青森県知事で参議員議員の故
津島文治、叔父は作家の太宰治。

子どもステーション山口の皆様をはじめ、首都
圏おやこ・子ども劇場の皆様、そして多くの方々
に多大なご心配、ご迷惑をおかけしましたことを
深くお詫び申し上げます。また同時に皆様から様々
なご支援を頂きました。ありがとうございました。
皆様のあたたかなお気持ちは我々にとって大きな
力となりました。芝居途中で公演中止になった、
山口での再演時に頂いたあたたかな大きな拍手は
生涯忘れることはないでしょう。カーテンコール
ではプレゼントを手にも多くの子どもたちが笑顔で
舞台上が上がって来てくれました。正直「あ、よ
かった」と思いました。「ツイーさん、無事に終わ
ったよ」楽屋の通路に飾ったツイーさんの写真にみん
なが報告していました。
芝居は不思議です。多くの方々のお力がひとつ
の芝居、一人一人、ひとつの台詞、動きに反映さ
れ、芝居を生かします。芝居の不思議な魅力、深
さを感じながら、これからも良き出会いがあるこ
とを願い、精進してまいります。どうぞ今後とも
よろしくお願ひ申し上げます。

「私の人生を変えた本」

などという大胆な注文をつけて「青い図書カード」の出演者に原稿を依頼しました。さてさてその答えは—!

『ちいさいモモちゃん』と『長靴下のピッピ』

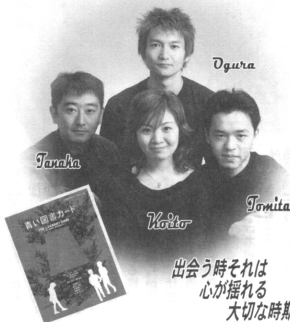
田中 誠 (青年)

小学校に入りたての僕は『長靴下のピッピ』を読んでものすごく気に入って、その続きを誕生日のプレゼントにねだりました。しかし、母親が買って来てくれたのは『ちいさいモモちゃん』でした。僕はがっかりした上に生意気にも「こんな子ども向けの本なんかいらぬ」と言い放ち、その本はタンスの引き出しにしまわれたのです。それから数ヶ月、引き出しから目を離せなかつた僕はとうとう扉を開けました。するとその本は驚く程おもしろく、あたたかな気持ちになりました。すぐに僕はそのシリーズを突破し、すっかり本好きになったのです。『長靴下のピッピ』を読破したのは言うまでもありません。

『王貞治物語』

小倉輝一 (ウィーゼル)

『王貞治物語』この本が小一の登校拒否児を救ってくれました。イラスト・マンガたっぷりの「一の冊で王選手の全てがわかる」的な本でした。食事のメニューや体のサイズに一喜一憂!! その中でも、高校時代のエピソード (国籍によって試合



出会う時それは心が揺れる大切な時期!

に出られないこと)や、プロ生活での厳しい特訓に向かう王選手の姿勢は強烈なシヨックでした。こんなに激しい出来事乗り越えて今の王選手がいることを知り、子ども心にも「王選手が頑張っているんだから、自分も」と、翌日から元気に登校する「どうこうきよひじ」の「と」の字もない少年が誕生していました。

『若きウエルテルの悩み』

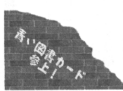
富田章二 (マングース)

『若きウエルテルの悩み』このタイトルにびんとくる方も多いのでは? 高校卒業直後、生活や仕事、恋愛 (恥ずかしくも) に不安だらけだった僕にとつて、この本との出会いは相当のシヨックでした。能力を持ちながら、激情と繊細さに翻弄され、道ならぬ恋に身も心も病んでいく、そして: 共感と共に自分を省みさせてくれた名作です。

『星の王子様』

小糸いずみ (ブレнда)

「人生を変えた」と言えるかどうかはわかりませんが、「子どものような素敵な大人になりたい」と思わせてくれたのがこの本です。これから読む方には、最後の方のページを先に読むことをオススメします。変なの!!と思うでしょうが、その理由はただひとつ。読んでいくうちにあんまり王子様を愛してしまうので、最後のあのシーンがたまらなく切なくて、まともに読めなくなってしまうからです。(本当です。)「おとなはだれでもはじめは子どもだった。(しかしそのことを忘れずにいるおとなはいくらもない。)」これは作者がはじめの文章の中で書いている言葉です。この本の中には子どもならわかる感性・感覚が随所に書かれています。この本を読んで、忘れかけていた大切な「何か」を思い出してみませんか?



おじいちゃんのスーツ

関口 篤

この芝居は今年で三年目の夏を迎えました。その間ステージ数は一〇〇です。だから決して多くはないのですが、私の長い劇団生活で観た方全員が口を揃えて「いい芝居だ」と云って下さった芝居はあまり記憶がありません。でもね、広島の方が観いらして「原爆はもつと悲惨だ」と云ったそうですが、この芝居は原爆の悲惨さを直接描こうとしたものではありません。それなら平和記念館の写真を見たほうがよいでしょう。

確かに八月六日がキポイントですが、私の知人で劇作・演出をしていく若き女性がそのホームページに素直な感想を書いています。「…婦らぬ人となった人を、未だ待つ人、忘れたことになってしまった人、忘れられない人、そして本当に知らない新しい世代とが出会いながら何かを見つけていく、じわっと心にしみる、しかしメッセージ性ばかり押し出すこともない上質の良き舞台：」と。

この笑いと感動の舞台を一人でも多くの方々に観ていただきたいと願うのです。



戦争は、悪い、悪いじゃない。

これはきつと、仕掛けを操作する人の個性が反映するからなのだと思えます。「しゃべる椅子」は不思議な役をさらりとやってみせてしまふ、七十歳になつたばかりの菊地さんが軽やかに演じています。

そして、長いこと「家族」を演じていて、いつのまにか本当の家族のような間柄になって、いつ七人の役者たち、これも不思議のひとつ。わからない事や不思議なことを初めから拒否するのではなくあるがままの存在として懐深く受け止められる感性は、いくつになっても深くしたくないな。暖かな家族、不思議な世界をどうぞ楽しんでくださいな。

おばあちゃんのひとり言

勝倉けい子

世の中には科学的に説明できないことがありますが。きつと誰でも一度や二度、そんな不思議な体験があるのではないのでしょうか。この舞台には「歩いてしゃべる椅子」と「蝶々」が出演します。いつも決まった動きをするのですが不思議なことに微妙な違いがあります。たとえば、少しばかりあわてたものの蝶、あるいはガラス細工のように触れたら壊れてしまいうような蝶、存在をシツカリと自己主張する蝶、そして椅子も又しかり。

2004年度新人紹介



大門裕明（演技部）
北海道出身
青山タレント・アカデミー卒業
一九九九年三月二十二日生

いい芝居をする人間になる為、人を尊敬し、人を尊重し、人と協調していきたいと思えます。身に付けるべき物を一つ一つ自分の物にし弱点を克服していきたいです。その後は今見えなものが必ず見えてくると思えます。



鎌田睦大（演技部）
静岡県出身
円演劇研究所卒業
一九七四年七月二十二日生

「楽しむ」この言葉が妙に心に突き刺さりました。先輩たちは、いつも舞台上で楽しそうでした。それは作品を愛し、仲間を信頼しているからなのかな。芝居だけでなく、全てのことを楽しめる。そんな自分探しをしていきたい。



岩野紗樹（演技部）
神奈川県出身
専修学校マルチメディア・アート学園卒業
一九八五年三月二十一日生

演じる側も、観る側も共に楽しく思える芝居を私はやりたい。簡単そうに聞こえるが、実はすごく難しいこと。なぜなら、一人では出来ないことだから。一人では出来ないことだから、すごくやりがいがあるのだと思います。

「カモメに飛ぶことを教えた猫」一ノ関公演
制作部：相元かおり

この公演は、私がこの劇団に入って二度目の旅公演であった。一関文化センターの担当者岡波さんは、とにかく仕事を一生懸命頑張っている感じの良い方で、こちらからの質問やお願ひにも快く対応してくれました。小学校の芸術鑑賞教室の公演だったのだが、開場して元氣に入ってくる子どもたちや先生に、センターの方たちみんな元氣よく挨拶をしていたのが印象深い。お芝居はかなり好評だった。主催者の方に「良かったですね」と言われたり、子どもたちが笑ってホールから出てくる姿を見たりすることは、何にも増して、この仕事を もっともっと頑張ろうという意欲になる。制作部としては、初めての列車団体券の扱いに戸惑ったりホテルの場所を迷ったりと、手際よく仕事をこなしたとはとても言えず、勉強不足・経験不足が露呈してしまっただけ。まだまだ、旅公演と聞くと思構えてしまうところがあるが、「日本全国どこでも行きます!」と明るく言えるようになってほしいと思う。



この港では、一匹の猫の問題は、
全ての猫の問題だ!

大佐/先日は暑い中観に来てくれてありがとう。わしの独断と偏見で、池袋芸術劇場公演アンケータの中から良き部分のみを掲載させてもらう。まずはこれじゃ。
▼大佐、秘書、博士この三人のアンサンブルが最高!

大佐/さびしいのお!!
▼最後は感動してウルウルきた。
▼優しい心を教えられた。
大佐/最後はこれで決まりじゃ。
▼値段が安いけど心から感動した。
大佐/みんなありがとう。元氣で暮らせよ!

大佐/ありがとう。観てくれたあなたも最高じゃ!
▼ソルバはカッコイイ、マチアスは「この人もいろいろあったんだろうなあ」という深さを感じた。
▼生まれたばかりのカモメがかわいかった。
▼ネズミのシーンは鳴き声とかリアルでときどきした。
▼詩人とフブリーナ、切ないというか、美しい関係が伝わってきた。
▼とてもさわやかで、笑いもあり、夢もあってとてもいいなあと思った。
▼乱れきった現代世情に、メルヘンチックなタッチで、強力なメッセージを伝えてくれた。
▼東京公演が最後なのは、寂しい。

LOOK!!



坂本葉子 (演技部)
愛知県出身
劇団21世紀Fox研究所卒業
一九七七年一月七日生



相元かおり (制作部)
岡山県出身
日本大学芸術学部演劇学科卒業
一九七八年七月二十九日生

趣味はお菓子作り。かなりの腕前かと思いきや失敗作だらけ。大学ではソフトテニス部。スポーツが得意かと思いきや運動音痴。期待外れの人生選択ばかりだが、興味を持ったら突き進む。素敵な人にたくさん出会いたい。

●劇団仲間公演情報をお届けします。
ご希望の方はご連絡先を劇団事務局へお申し出下さい。ご連絡方法は、電話、メール、Fax、いずれでも結構です。

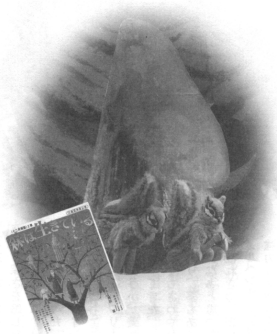
●演劇鑑賞教室・自主事業公演・その他公演依頼、ご相談は、劇団制作部へお問い合わせ下さい。各公演情報は、劇団ホームページでもご覧いただけます。
(連絡先・劇団ホームページアドレスは表紙上段に記載)

「森」と「観劇会」と私

遠藤貞男

私は八十二才の老観客です。戦前の一九四〇年ころから芝居を観つづけてきました。劇団仲間四十五年史の公演年表を繰ってみると、一九五四年の「夢」以降、ほとんどの公演を観ていて、とくに一九五九年初演の「森」は毎年繰返し観ており、視覚障害を持つ好劇家の観劇会でも取りあげてたくさんのかたが楽しんできました。「森」の俳優座による初演は一九五四年ですが、当時五才の長女と観たときの興奮と感激は、知る人ぞ知る、初日の夜は終演が十一時だったのが、千田是也先生が長女に「眠らないでよく観たね」とおっしゃいました。五十年を終えて今年の冬には、その長女の孫、私の曾孫を連れてゆこうと予定しています。劇団が近年私の手を介することなく、毎公演の案内を点字で印刷して二百名のかたに郵送、申しこみを受けてくれることは、うれしくおもっています。「森」千六百回上演記念パーティの席で、尾崎宏次先生と私がスピーチをしました。

尾崎先生は「盲人と観劇」と題して、NHK教育テレビで「もし社会のひとたちが、盲人は観劇できない、とおもうなら、完全な誤りであって、全盲のひとと完全に芝居を観ることができるのだ」と、盲目の詩人エロシenkoが鋭い批評をしたことなどを例にあげお話しになって深い理解を示されました。



極寒の森にあたたかな息吹が聞こえる

※遠藤貞男(えんどう さだお)
一九二二年東京生まれ。上尾市在住。八十四年に日本銀行を定年退職。七十六年から目の不自由な人のための観劇会を始めた。大の芝居ファンで、この五十数年間にみた芝居は、新劇を中心に三千本以上にのぼる。

十年間、山梨の都留市から上京して私と約百五十本の芝居を観ている半田先生(七十五才・全盲)は「森」をお孫さんと毎年観ている、ほんとに芝居好きなかたです。「夢」深くして「尽きず」の一声と言葉を中心にして「初演雑感を原稿用紙四十枚にかけた長棟まお氏の文章は、ちよつと彼女以外にはかけないであろう厳しく鋭い内容のもので、私などには及びもつかない」と感服します。

ほかに、本質を視る感性をもった全盲の好劇家が多いのです。より深いご理解とご協力をおねがいしく思います。

編集後記

夏休み三作品連続公演も無事終了し、いよいよ新作『小さなソフィー』のつばのバタバタが開始いたします。今回が初顔合わせとなる、鄭義信氏を脚本・演出に迎え、キャストも若手中心。仲間の新たな一面を見ることが出来るのでは、と今から楽しみにしております。

十一月公演終了後は毎年恒例『森は生きている』の季節になります。慌ただしい日々が続きますが、さらに質の高い作品を皆様にお届けしていきますよう、より一層努力し続けていきたいと思っております。

- ◆ 会場 紀伊國屋サザンシアター
- ◆ 公演日 12月23日(木)～12月28日(火)
1月4日(火)～1月5日(水)
- ◆ 前売り開始 10月下旬予定、乞うご期待!

